

平成 27 年度第 1 回一関市総合教育会議 議事録

- 1 会議名 平成 27 年度第 1 回一関市総合教育会議
- 2 開催日時 平成 27 年 6 月 2 日（火） 午前 10 時～11 時 45 分
- 3 開催場所 一関市役所 議会棟議員全員協議会室
- 4 出席者

【構成員】

勝部 修 市長
教育委員会 鈴木 功 委員長
〃 菅原 良一郎 委員長職務代理者
〃 小野寺 眞澄 委員長職務代理者
〃 千葉 和夫 委員
〃 小菅 正晴 教育長

【事務局等】

佐藤市長公室長、千葉政策企画課長、藤島政策企画課主幹、佐藤政策企画課長補佐
佐川いきがづくり課長
熊谷教育部長、小野寺一関図書館長、中川教育部次長兼教育総務課長、小野寺教育部次長兼学校教育課長、佐藤文化財課長兼骨寺荘園室長、黒井教育総務課長補佐

5 議 題

- (1) 一関市総合教育会議の運営について
- (2) 一関市教育に関する大綱の策定について
- (3) 読書活動の推進について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 報道 4 社

8 会議の内容

(市長挨拶)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正され、この 4 月から施行されています。改正の内容をまとめると、大きく 3 つの部分があると考えています。

1 つめは、新教育長という新しい仕組みとなったこと。今までは、議会の同意を得て教育委員会が教育長を任命していましたが、首長が直接新教育長を任命する形となりました。これは、新制度の中では画期的な変更点であろうと感じています。

2 つめは、まさに本日第 1 回目を開いていますが、総合教育会議という場が設けられたこと。首

長と教育委員の皆さんがこの地域の教育の政策について議論をするということの意味や意義の大きさを重視したいと思っています。

3つめは、大綱をつくるということ。これについては、教育振興基本計画や総合計画をもって替えることもできますが、私はやはり、総合教育会議という場が設けられたことから、結果的には教育振興基本計画又は総合計画と重複する部分もあると思いますが、この場で議論して大綱を作り上げることを重視したいと思っています。

将来に渡って誇れる地域を作るためには、人材の育成は欠かせません。地域づくり、まちづくりというのはイコール人づくりでもある。将来の、次の世代の一関を託す子どもたちをどう育てていくか、政策的なところも含めて議論をしていければいいと思っています。

次の世代に活躍する子どもたちに対するはっきりとした、しっかりとした政策がないと、その地域は力が弱っていくと思います。次の世代を背負って立つ子どもたちに対する教育、人づくりという部分がしっかりしていない地方は、やがて消滅に向かうと思っています。総合教育会議での議論はそれだけ意味の大きい、責任のある部分が多いと感じていますので、しっかりと、気を引き締めて対応していきたいと思っています。

市では、この4月からの新年度当初予算のキャッチフレーズを子育て応援予算と位置付けました。子育てというのは狭い範囲の子育てではなく、赤ちゃんが産まれる前、つまり不妊治療の部分から、生まれて成長して学校に上がって就職して、さらに結婚してといった自立するところまでが子育てという範疇に入ると認識しており、一つ一つの点の施策をつないで線にしました。今後は点から線になったものを面へと広がりを持たせることが必要なもので、その意味からも教育政策を考えていく必要があると思っています。

教育に限らず、広域行政的な取り組みを大事にしたいということで、先日は栗原、登米の両市長と話し合いをして、県境を超えたところで、同じ通学・通勤エリア、同じ医療圏、同じ文化圏、そういうところでこれから連携をしていきたいと思います、という話でまとまったところです。

いずれ、様々な制度の壁はあります。国の縦割りの中で、そういう面的な広がりを作っていくことは、特に県境を抱えている一関にすれば大変大きなハードルがありますが、可能な限り乗り越えてやっていこうという姿勢は、今後とも維持していきたいと思っています。

この総合教育会議での議論というのは結論を出すということではなく、一つのテーマについて協議・調整を行うというように示されていますので、共通認識に立って当面の課題に対応していく、ということで考えていきたいと思っています。地域における様々な問題を一緒になって議論を尽くして、共通認識の下で地域の課題に取り組んでいければ幸いです。

議論を重ねていく中で、一関の地域に適した方向付けが見えてくればいいと思っています。子供たちがしっかりと地域を背負って立つ人材として成長していくために、不断の努力を続けていくことが、私たちに課せられた大きな役割と思っていますので、大きな視点でこれからの議論を進めさせていただければと願っています。第1回、初めての会議でもありますので、少し長くなりましたが挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願ひします。

(1) 一関市総合教育会議の運営について

佐藤市長公室長：資料1により説明

(質疑なし。提案のとおり了承された。)

(2) 一関市教育に関する大綱の策定について

佐藤市長公室長：資料2により説明

(千葉委員)

大綱は、市長が教育委員会の意見などを聞いて、総合教育会議の場で策定するというのでしょうか。

(市長)

この場で協議をして、それを踏まえて、最終的には首長の責務として策定するという事です。

(教育長)

教育振興基本計画は基本的には教育委員会の所掌事項が中心になりますが、大綱ではそれ以外の部分も網羅する形で作られるという捉え方でいいのでしょうか。

(市長)

その地域でどういう人材を育てて行ったらいいのかという事で、義務教育の部分だけでなく、全てを見た中で教育を捉えなければいけないと思っており、当然、今までとは若干違った形になっていくと思います。

地方自治体としての教育の方向付けと申しますか、基本的な部分が大綱の中に入ってくるだろうというように認識しています。

(菅原委員)

大綱の策定案では、基本目標を「当市が目指すべき教育の姿を表すもの」としています。「姿を表すもの」と言いますと、何となくスローガンのようなイメージを持ちますが、そういったものを仮に策定したとして、実際にどのような効果が学校などであるのでしょうか。

(市長)

確かにスローガンのような部分は出てくると思いますが、学校の先生方が、どこかに掲げてどうするという話ではないと思います。意識はしていただきたいと思うし、地域というキーワードでの意識付けということはしていただきたいと思っています。大綱で定めたことというのは、父兄等はもちろんのこと、市民の方々に対して、一関の教育はどのような方向付けで、首長と教育委員会が一致した共通認識の下で取り組んでいく、というメッセージ性は持っていても良いと思います。

ただし、新しい仕組みが学校現場を混乱させることがあってはならない。これはまず、大原則だと思っています。むしろ、こういう新しい仕組みになって、色々な事をやっていくのが、学校の教壇に立つ先生方を元気づけるような、そういうものになるべきであって、混乱させるようなことは絶対に避けなければいけないと思っています。

(千葉委員)

基本目標として「当市が目指す教育の姿を表すもの」とありますが、具体的に「当市が目指す教育の姿」とはなにを指すのでしょうか。

(市長)

ここで言う当市というのは、一関のその教育の分野を全部包括した形なので、一関全体です。地域全体で目指すべき教育の姿、と読んでいただければと思います。

(菅原委員)

一関市の生涯学習教育や、保健や医療などまで含めた、年代を問わないものということで、理解してよろしいでしょうか。

(教育長)

教育は学校教育だけではありませんので、教育委員会の小中学校の学校教育という事に限らず、大きな部分で捉えなくてはいけないことがあるのかと思います。

(菅原委員)

そうしますと、我々教育委員は小中学校のことについて、今まで議論してきたのですが、その枠を超えとなると、我々でいいのですかというような思いがあるのですが。

(市長)

今まで義務教育の部分で議論されてきたのと同じように、枠の外の部分も協議していくという事になると、非常に負担感が大きいと思います。ただ、全くその部分を外してしまうと、総合教育会議が十分に機能を発揮できなくなってくると思いますので、これまでの教育委員会の中での義務教育、小中学校の教育の部分を基本にしながら、その周辺にも意識をお持ちいただいて、関連性の部分での議論を深めていくという事だろうと思っています。

(千葉委員)

基本目標について、教育の政治的中立性は担保されないといけないわけですが、例えば「当市が目指す教育の姿」というのは、市長が変わって強烈な個性を持った人になれば、自分の考えを教育の中で推し進めたいということになる可能性も懸念されますが、どうでしょうか。

(市長)

それは、この総合教育会議の場で議論を尽くすべきだと思います。今までと違うのは、公開ということです。公開して、広く市民の方々に、ここでどういう話し合いがなされたかということが全部公開されるという事は、独断的な意見だけで突っ走るという事に対する一つの制御の役目を果たすのではないかと思います。

ですので、総合教育会議での議題に何を取り上げるかという事が非常に大切です。ただし、最初にあまり明確に決めてしまうと、非常に間口の狭いものになってしまいますから、今日はこういう内容について協議をしたい、という事を決めて、議論を深めていくことが良いのかと思います。

(教育委員長)

この場が具体的内容について決定的な権限を持つものになっては支障がある部分も当然あるで

しょうから、運営上の配慮をしていきながら、市町村と教育行政との風通を良くして進めていくという事があればいいのかと思います。

(市長)

事務局に確認ですが、大綱の期間というのが概ね5年。市長の任期が4年。新教育長の任期が3年となっていますが、その関係をどのように考えていますか。

(市長公室長)

大綱が対象にする期間については法律では定められていませんが、文部科学省からの通知では、地方公共団体の長の任期が4年であることや、国の教育振興基本計画の対象期間が5年であることを考え、4～5年程度を想定しているものです。

そこで、本市の大綱の対象期間につきましては概ね5年間とさせて頂きましたが、大綱につきましても、教育委員会において策定される教育振興基本計画におきましても、総合計画と整合を図ることが施策としては好ましいと考えています。

(千葉委員)

確認ですが、市長が変わっても5年間の中であれば、大綱を変えることなく、そのままと考えてよろしいのでしょうか。

(市長公室長)

総合教育会議の場において協議いただくこととなります。

(教育長)

総合計画も来年度28年度からの計画で、5年単位で前期と後期があり、教育振興基本計画も28年度からの方針であって、これも5年単位で考えますので、政策的な単位として非常に合致するだろうと思います。

急遽色々な部分で調整しなくてはいけない時には、当然この会議で市長の考えを聞きながら、意見をさせていただくことになると思います。

(市長)

市の総合計画にしる、そのほかの重要な計画について、首長が変わったから変わるということはないでしょう。策定の過程などが最大限に尊重されるべきですから。

ただし、首長が例えば教育に関する大綱を変える、ということを公約に掲げて立候補して、当選した場合はあり得ると思います。

(教育委員長)

特に教育の分野で継続性というのは重要な柱の一つですので、時として大きな変化が起きる可能性がないとは言えませんが、基本的な継続性を大事にしながらいくのが妥当な案ではないかと思います。

(市長)

私もそのとおりだと思います。

中立性と継続性と安定性の3つが生命線だと思っていますので、大綱の中でも意識は強く持たなくてはならないですし、この総合教育会議の場においても、この3要素は絶対欠かせないという思いです。

(菅原委員)

教育委員会というものに対しての世間のイメージは決して良くないと思っています。大津のいじめの問題などが報道されて、教育委員会は不要だというような声が出てきたと。そこで、総合教育会議は、首長を入れて強力なリーダーシップの下に進めていかなければならない、ということになったのかと思えるのですが。

先ほど運営日程が5月と11月という事でしたが、必要があれば随時開催できるということになっていますが、果たして2回くらいでいいのかと思いました。

(市長)

開催回数については、基本として考えているもので、必要があればその都度開催できることになっています。

また、今まで悪いイメージが先行していて、理解されない部分もあったので、そこに首長を入れてという考え方ではありません。この総合教育会議を公開の場でやることにより、情報提供・情報発信という面から見ても非常に大きな意味を持っていると思いますので、活用して情報発信していくべきだと思います。

(小野寺委員)

総合教育会議について、広い範囲でいろんな意見を出し合っただということになりますが、いろんな分野の方たちにもう少し入って頂いてという形は考えていないのでしょうか。

(市長)

議題となっている案件について、関係する分野の方から意見をいただくということは可能です。いずれそういう場面は出てくると思います。

(教育長)

この総合教育会議の構成メンバーは法律で定められている部分でありますし、本日もこの後事務局から説明がありますが、例えば、教育委員会内から資料として提供したり、参考意見を頂いたりというのは大いに良いかと思います。

ただし、この場では教育委員としての色々な考えを含めて市長と意見交換させて頂くことで、総合教育会議としてより充実すると思います。

(市長)

この部分が一番重要な部分です。ここをしっかりと議論しておかないと、後々の総合教育会議の運営にも大きく関わってくるところでもあります。

大綱を定めることについての基本的な共通認識を持つということが本日の大きなテーマでありませんが、大綱を策定するための枠組みが細かい所までは定められておらず、本日の段階では基本的な事項について定めればよろしいかということで、提案した内容に落ち着くのかと思います。

(教育長)

今の大綱の部分で言うと、大綱はあくまで基本的な部分として、例えば個別の教育課程や人事などに関わるものではありませんので、この中で様々な議論をさせて頂いて、来年1月から2月頃に、会議とは別に市長の権限で定めるという形になるという捉え方でよろしいですか。

(市長)

そのとおりです。

他にありませんか。もし後日ご意見がありましたら、事務局の方をお願いします。調整させていただきたいと思いますので。

それでは資料3の内容で大綱の策定を進めていくということで、了解いただけますか。

(提案のとおり了承された。)

(3) 読書活動の推進について

小野寺一関図書館長、小野寺教育部次長兼学校教育課長：資料により説明

(市長)

奥の細道サミットというのがありました。松尾芭蕉が奥の細道で弟子の曾良と一関に2晩泊まって、平泉へ行っていました。毛越寺と中尊寺金色堂にある俳句が出来たのですが、芭蕉の立ち寄ったところとして、全国で三十数都市が関わっています。感じたのは、芭蕉の俳句を子供たちの教育にかなり使って、それをまちづくりにも結び付けているという、そういう取組みを目の当たりにしてきて、すごいことだと思っています。

(教育長)

東北の教育長会議がありまして、山寺に行ってきました。そこで芭蕉記念館を見ながら、非常にそれを活かしながら取り組んでいると。一関の場合には、芭蕉が2句、曾良の分も含めると3句を一関で作っているというのがありますし、2晩泊まっているということで、非常に文化的、歴史的価値は高いと思うのです。なかなか今まで教育の中に入れてこなかったということはあると思います。ある先生が一関に3年ほどいましたが、一関に芭蕉が泊まったことを知らなかったのです。そういった部分をもっと教育の中で、芭蕉に限らず、日本を切り開く先人もいたわけで、地域でもっと誇りにするものを作っていくべきなのでは、ということをおっしゃっていました。

(市長)

山形の尾花沢にも滞在したらしいですね。それを非常に市長さんが自慢しているのです。何でも地域の活性化のためには利用することという部分も見えてきました。

一関で2晩泊まって、平泉から戻った時には、宿の主人が風呂を沸かして待っていてくれたというところまで、曾良の日記には書いており、一関はたいしたものだなと。その頃からおもてなしの心があったのだなと。はっきりした場所は特定できていないようですが、はっきり特定できれば、ものすごい観光資源にもなるし、地域のまさに言葉の先人としての位置付けもはっきりできていくのかなと思います。

(教育委員長)

先人の部分で。小学校の3・4年生の頃のためのいわゆる副読本のなかで、先人の名前は並んであって、何行かは触れていると。ただこれは、言葉の力を育てる視点というよりは地域学習、そして産業分野や文化財や人物に視点を当てた中での取り上げ方です。特に地域の中で、文化的なものがたくさんあることを、学校教育の中や成長段階でしっかり触れるという方向は大切だと思います。

(市長)

特に地域の先人、あるいは芭蕉のように一関にゆかりのある人の作品等について、子供たちがしっかりと理解をしていて、それを自分が生まれ育った故郷の誇りとして堂々と意見を言えるようになれば、私はものすごくコミュニケーションの大きな力に結び付くと思うのです。キャリア教育でもそういうことを柱にしているのです。今は皆に同じような質問をすると、同じような答えしか返ってこないということが企業さんの感想でありました。やはり自分が本当に誇りにしているのだという事を相手に理解させるには、言葉の力が絶対不可欠だと思います。

(教育長)

この間、全国の方からお話を聞きましたが、結構全国的に地域という事に注目されています。一関市のことを考えたときに、全国的に課題となっていますが、人口減少、地域の誇りを一関の子供たちが持って成長していく、そして地域に貢献する。ここで貢献しなくても、外に行って一関を応援する。これを作っていくのは教育の果たすべき役割ではないかと非常に感じています。

(千葉委員)

教育委員会では、小学生向きの郷土の偉人というような副読本は作っていませんか。

(教育長)

作っていません。先ほど委員長が言われた、社会科副読本の中で地域として取り上げてきたことはあったのですが、一関全域で改めて精査しながら作っていくという事は今までやっていません。合併10年になりますから、そろそろそのような形での教育が必要になってくるとは感じています。

(教育委員長)

この分野は学校教育との接点として、今一つ手を付けていない部分だと思います。今まで蓄積されてきた郷土を学ぶための小学生向け副読本は、各市町村で作ってきた経過がありますが、それを整理していく作業まではまだ行っていません。そういう段階でもあるので、今まで折角積み上げてきたものを継承していくことが当然必要になりますし、新たな視点を設けて積極的にどうしたらいい

いのかという辺りを、問題意識を持って対応していくのが良いのではないかと思います。

(市長)

非常に話題性があると思います。宮沢賢治の雨ニモ負ケズという作品は、実は宮沢賢治が東山の砕石工場で働いていた時に持ち歩いていたカバンの中あったもので、亡くなった後に発見された手帳に書いてあったのです。細かいところまでは立証されていませんが、賢治が東山にいたときに作った作品なのかなど。それはすごい事です。

(教育長)

宮沢賢治と東山の関係で、私もこの間なるほどと思いましたが、今度一関博物館で7月から大船渡線をテーマとして取り上げる展覧会を予定しています。大船渡線がスタートしたのは大正の末期から昭和の初め辺りで、大船渡線が通ったために、東山の石灰を砕いて土壌の改良に使える様な交通機関、輸送路が出来ました。輸送路が出来て会社が大きくなって、それで宣伝マンが必要になって、宮沢賢治が働くようになったと。だから、宮沢賢治一人が非常に有名なのですが、それとの関連で地域というのが随分勉強できるなと思いました。石灰という地層の学習にも歴史の学習にもなり、広がりがある学習ではないかと非常に感じます。

(市長)

話しているとどんどん時間が経ってしまいますけれど、総合教育会議の場に限らず、公式・非公式でこういう場で、その都度色々なテーマを決めて、意見交換できればいいなと思います。

また、次回もこのテーマでも結構ですが、テーマの選択は、その都度相談しながら、やっていければと思いますので、よろしくをお願いします。

これからも中身のある良い総合教育会議にしていければと思っていますので、よろしくをお願いします。では、今日の会議はこれで終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

9 担当課

市長公室政策企画課